

きたし、生徒のまなざしがいきいきとしてきた事は感じられる。ある生徒は、突然試験の結果、好成绩を出したので聞いてみると、なにか自信がでてきたようだとやっている。この方法は昔からあったのであり、なにも目新しいものではない。温故知新で教育法に変化をもたせ、実験実習や視聴覚教育でカバーできない面を今後ともくふうしていきたいと思っっている。

プロジェクト学習と

学校農業クラブ活動の実践

福島県立岩瀬農業高等学校教諭
生 方 和 廣

はじめに

農業教育の方法は、授業・実験・実習等、いろいろな角度からおし進められているが、それらが有機的・効果的に結びつくところに意味があると思う。その実践活動のなかで難かしさを感ずる点は、特に次の点と思われる。

- 能力差に応じた基礎的事項の定着はどのようにしたらよいか
- 実験実習の難かしさを克服するにはどうしたらよいか
- 研究心・実践力などの意欲をいかにしたら高めることができるか

これらの問題点を解決する一つの方法として、プロジェクト学習と、農業クラブ活動の強化をはかってみた。

一、プロジェクト学習の実践

プロジェクト学習とは、生徒が将来の農業を想定して、自分で栽培設計等を計画し、自分で計画にそって実践し、その結果をまとめて反省し、今後の農業のあり方を検討するといった学習である。それは体験のなから、総合的に学習するものであり、作物の生育の流れにそってはじめてから終りまで系統的に学習するものであり、教える学習ではなく求める学習である。

実施場所は学校の農場で、時間は、授業（選択）と放課後実施する。各自の計画に従って、教師の指導助言を受

けながら実施する。各自のプロジェクト学習が終了すれば、その過程で農業の本質的な基礎はすべて学習し、身についたことになる。

☑効果

- ① 体験を通しては握するため、能力差にかかわらず、基礎事項の定着がはかられた。
- ② 一つの作物を追求することにより他の作物へも応用できる力が養えた。
- ③ 総合的に農業知識を組み立てることができた。
- ④ 意欲と目的意識を持たせることができた。
- ⑤ 個別指導が徹底できた。

二、学校農業クラブとプロジェクト学習の関連性

学校農業クラブにおける研究活動と専攻学習におけるプロジェクト学習の目的は、教育的にみてほぼ同じであるので、指導の一本化をはかり、更に教育効果の向上につとめた。

○効果
① 専攻学習（プロジェクト学習）の生徒と研究班（農業クラブ）の生徒のメンバーを同じくすることに

園芸教科におけるプロジェクト学習の例

	生徒の活動	到達目標	指導の留意点
計画	栽培計画の立案	作物栽培と農業経営品種と作目選定の条件作物の生育経過と環境栽培計画の立案	○生徒の家の経営実態について ○資料、参考書を読ませる ○個別指導により研究テーマを設定させる
実践（実習調査等）	育苗 播種、鉢上げ 育苗管理 定植床作成	たねまきの方法、移植育苗管理土、肥料と栽培との関係	○生徒が自主的に自分のテーマにもとづいて活動できるようにする ※きめ細かい指導 ○黒板、プリントでの現場指導 ○質問に対する答え ○作物の変化に対する発問 ※つき離した指導 自主的活動をした後で質問に対し答える ○記録簿の点検と評価 ○個別指導の徹底
	定植	定植の時期と条件定植の方法と管理	
	定植後の管理	栽培の仕立て方整枝、誘引、芽かきの方法栄養成長と生殖成長花芽分化、開花、結実追肥と肥料の吸収状態病気と診断農業薬剤と使用法	
	収穫	収穫の適期の判定品質鑑定調整 荷姿	
まとめ	データの整理 発表 論文	収支決算 実験調査のまとめ方 研究発表の方法	論文の作成にはじゅうぶん時間をかける 農業クラブの研究発表大会に参加

工業

「工業」における 学習指導法のくふう

教育過程審議会答申のIIに関連事項として五項目があげられているが、そのなかで指導方法について次のように述べられている。要約すると「教育過程の実施の効果は、各学校における自発的・創造的な活動に期待するところが大きい。特に精選された内容を確実に身につけさせ、一人一人の生徒の個性や能力・適性に応じた行き届いた学習指導を進めるためには、教育の実際



より、自主的研究活動は、グループ活動にまで盛り上がり、授業内活動から放課後活動まで延長されるようになった。

② 生徒みずから研究活動をしているという盛り上がりだが、校内全体に広がった。

③ 農業クラブは、研究活動の援助として、講演会、講習会、先進地視察、研究発表大会などの行事を開き、さらに研究活動（プロジェクト学習）を盛り上げることができた。